

理学部教授 32年 山元龍三郎^{りょうざぶろう}先生は京都府立第一中学校を卒業され、つづいて第三高等学校を経て京都大学理学部に進学し、1951年3月、地球物理学科を卒業された。いずれも旧制度の学制のもとでその学業を修められた。つづいて大学院に進学され、1957年11月には、「大気微気圧振動・重力波の観測的理論的研究」によって理学博士の学位を受けられた。同研究は内外の研究機関から高く評価され、また米ソの度重なる核爆発実験のおりから、社会の高い関心を得た。翌年4月には京都大学理学部助手の職務につかれた。以後同学部において助教授および教授（気象学講座担当）として多くの学生や院生の教育に携わってこられた。また、教育と研究指導に多忙な傍ら、同学部付属気候変動実験施設の設置に尽力され、1981年4月、施設長に就任された。同施設では、気候変動の研究分野で活発な活動をされ、多くの研究成果を残された。理学部教授としては、25有余年にわたり教育と研究指導に尽力され、わが国の気象学関連分野に多くの人材を送り出された。1991年3月に停年によって退官された。以後京都大学名誉教授となられ、日本気象学会においては名誉会員になられた（1996）。その後、財団法人日本気象協会相談役（関西本部）に就かれたが、気候変動の研究は継続されていた。なお今日にあっても、研究の構想を抱き続けておられるものと拝察される。

学外の主要な役職 32年にわたる理学部教授にあつて、学会や行政機関など、部外の機関において多くの公的な役職を勤められ、いずれもその重責を果たされた。それらを列記すると、

日本気象学会では、理事、第23・24期理事長（1984～88）、関西支部長（1976～84）を、

日本学術会議では、気象学連絡委員会委員長（1982～88）、

地球物理学研究連絡委員会付置世界気候小委員会委員長（1978～83）、

国際協力事業特別委員会 WCRP 分科会委員長（1981～85）、

WCRP 専門委員会委員長（1985～88）を、

文部省では、測地審議会委員（1981～90）、学術審議会専門委員（1984～86）、

WCRP 特別委員会委員長（1985～90）を、

気象庁では、気象審議会委員（1987～95）、

諮問第 17 号技術開発部会会長（1987）（気象庁における科学に関する新たな研究及び技術開発の課題とその方策について）、
気候問題懇談会委員および同会会長（1979～95）を、
日航財団では、地球環境観測検討委員会委員長（1992～02）を、
財団法人日本気象協会では、研究委員会委員長（1995～03）（歴史的船舶データセットの整備とそれによる研究）、
をあげることができる。

写真複製版論文集 理学部在籍もしくは在任中 35 年に及ぶ研究活動の成果は 63 編 729 ページの『山元龍三郎教授論文集』にまとめられている。研究分野別に記すと、

「微気圧振動と重力波の研究」計 13 編、

「台風の研究」計 10 編、

「大気大循環と異常天候の研究」計 18 編、

「気候変動の研究」計 29 編、

及びその他の論文 3 編に分けられる。この他、論文集収録外の市販の図書に『気象異常』（集英社）と『地球異常』（集英社）がある。これらの著書は、気候変動問題について一般市民の啓蒙に広く貢献した。これら多くの論文や著作のなかでも、観測、解析、理論をすべて一人の研究者が行った「微気圧振動の研究」は、学術的に高く評価され、日本気象学会賞が授与された。またこの研究は、核爆発の探知を可能にすることから、理学分野における研究成果にあって、「包括的核実験禁止条約」に大きく貢献することになった。また「気候変動の研究」の成果は、「気候変動に関する政府間パネル IPCC」に科学的知見として提供され、「気候変動枠組み条約」の運用に貢献している。

これら 60 数編の論文のなかの微気圧振動に関する研究は、地球物理学科の創設者志田順先生の考案になる測定器を展開した観測網を用いており、志田先生の後継者滑川忠夫先生の研究を踏襲されたものである。その主要な部分が発表されるや、日本気象学会はその研究内容を高く評価し、学会賞を贈った。同研究のうち理論的な解については、先に、当時米国において新たに製作された電子計算機 ENIAC を用いた研究がなされていたが、先生の観測結果はその修正の必要なことを示していた。そこでは数値解による正しい結論を導くことが必要であった。ENIAC 利

用の適わない先生は、計算尺を用いてその計算にあたられ、見事に正しい結果を導かれた。研究の評価にあたっては、このような努力も注目されたことであろう。

数々の表彰 先生はいくつもの分野にわたって研究活動をなされたが、最初に取り組みられた研究が気象学会賞に輝くことになった。その後の研究分野においては、地球温暖化の実態把握については交通文化賞を、気候変動の研究にあってはアカデミア賞をもって研究の成果の表彰を受けられた。また研究成果の社会への伝達については、藤原賞がその努力を表彰している。これらの表彰を列記すると、

日本気象学会賞、日本気象学会、1958年

「微気圧波の研究」、

岡田賞、(財)日本気象協会、1989年

「気候変動に関して気象業務に貢献した功績」、

交通文化賞、運輸省、1990年

「地球温暖化の実態把握と将来見通しをとりまとめて社会に公表した業績」、

アカデミア賞、全国日本学士会、1990年

「地球環境破壊要因を解明する気候変動の研究」、

藤原賞、日本気象学会、1993年

「近年における気候変動の実態解明及び気候変動研究推進とその成果の社会への伝達」、

アカデミア学術大賞、全国日本学士会、1995年

「地球規模の気候変動の研究とその推進」、

気象庁長官感謝状、1995年、

「気候問題懇談会において地球温暖化に関する研究の促進及び学術の発展などへの尽力」、

文部大臣表彰、1999年

「測地学における測地事業の新興発展に尽力」

がある。これら数々の表彰に加えて、このたび**瑞宝中授賞**を受賞された。